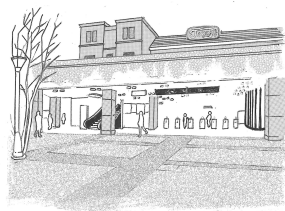


夏休みも終わり 2 学期になりました。幸福高校の 3 年 1 組の生徒達も受験を半年後に控えていることを自覚してきたのか、自ら問題集を探して勉強する人が増えてきたようです。

ところで、幸一君とるいさん、れいさんは幸福高校に歩いて通える範囲に住んでいるので電車では通学していません。しかし、最寄り駅の駅ビルの 2 階にある店にはよく買い物に行きます。2 学期が始まって数日たったある日、れいさんがこの駅ビルの中にある書店で買い物をしていると、偶然、幸一君に出会いました。



幸一: あれえ。そこにいるのはれいじゃないの?

れい: あ、幸一。こんにちは。

幸一: ここで何してるの。

れい: 最近ね、みんな教科書と学校で配られる問題集以外に何か問題集を買って解いているみたいじゃない。

幸一: るいもそうなの。

れい: もちろん。るいはしっかりしているわよ。高 3 になったときから受験教科は毎日問題集で鍛えているわ。私も問題集を探しているんだけど、どれでもいいってことないし、志望校に合格するにはこれなら大丈夫と思える問題集がないか探しに来たのよ。

幸一: えー。るいがねえ。やっぱりやらなきゃだめかなあ。

れい: 幸一、証先生の話聞いてなかったの? 受験としての数学の学習はね、

第 1 段階: 定義、基本事項を理解する。

第 2 段階: 教科書の問題などで、基本事項を使いながらそれらを定着させる。

第 3 段階: 複数の基本事項を組み合わせた問題の演習をする。定石と呼ばれるものをここで身につける。

幸一: (れいさんの話をさえぎって)「定石」って何?